

黙示録13章： 獣の国

13章は12章の続き

竜：イスラエルと戦って、今度は地上にいる聖徒たちと戦うために、海辺の砂の上に立った。(12:17-18)

1-2節： 海からの獣

この獣の描写はダニエル書7章から来ている。

1-7節： 四頭の獣

- 1) 獅子：バビロン
- 2) 熊：メディア・ペルシヤ
- 3) 豹：ギリシヤ
- 4) 鉄の牙を持つ獣：ローマ(十本の角=十人の王)

8節： 反キリストの出現

- 1) 十本の角の間から出てくる小さな角
- 2) 大きくなり、三本が引き抜かれる。

9-14節： 天の御座とキリストの再臨

15-18節： 四頭の獣の解釈

19-27節： 第四の獣の解釈

- 1) 全土を食い尽くす
- 2) 十人の王の国
- 3) もう一人の王がそのうち三人を倒す
- 4) 神への冒瀆
 - a) 神に逆らう言葉を吐く
 - b) 聖徒たちを滅ぼそうとする
 - c) 時と法則を変えようとする
- 5) 裁かれ、滅ぼされ、代わりに神の国が聖徒たちに与えられる

ダニエル7章の第四の獣と、黙示録13章の獣の違い

1) 後者には、七つの頭がある

2) 後者は、他の三つの獣(獅子、熊、豹)の特質も持っている

→ 黙示録17章7-12節に、詳しい解釈が載っている

まとめると「歴史上の世界帝国、そして最終的な世界政府の総統」と言える。

「自分の力と位と大きな権威とを与えた」：キリストは誘惑を受けられた時、悪魔のこの申し出を断わられた(マタイ 4:8-10)。けれども反キリストはそれを受け入れる。

次から見るのは、すべて本物に似せた偽物

3-4節: 獣のよみがえり

「打ち殺されたかと思われたが」: 「底知れぬ所から上ってくる獣が(11:7)」

「竜を拝んだ」: キリストのよみがえりによって、父なる神の栄光が現れた。そしてキリストご自身のあがめられる(ピリピ 2:9-11)。これに真似て、偽りの奇蹟を行なった。

5-10節: 獣の冒涇と迫害

「けがしごと」: インターネット界で「謗り」が横行しているが、非常に危険(ユダ8-10)。

「42ヶ月間」: ダニエル第七十週目の後半部分

「天に住む者たち」: この中に教会が含まれる

「聖徒たちに打ち勝つ」: 教会ではない。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。(マタイ 16:18)」

「世の初めからその名を書き記されていない」: 神の選びは世の初めに行なわれている(エペソ 1:4)。

「剣で殺す者は、自分も剣で殺される」: 反キリストの帝国に抵抗運動しても、殺されるだけ。

11-15節: もう一人の獣

「地から」: 御霊によるものではない。

「小羊のような二本の角」: キリストは七本の角を持っておられた(5:6)。キリストに真似たもの。

「最初の獣を拝ませた」: 預言者の役割を行なう。

「火を天から地に降らせる」: 二人の証人に真似ている。

「獣の像」: この世の指導者は自分の像を造り、拝ませた(例:ネブカデネザル ダニエル 3章)。

「息を吹き込んで」: 宗教的、オカルト的な預言者。

ある人々は、これを「偽の三位一体」と名づける。御子が復活し、御父の力、権威、位を受け、それから聖霊が御子の栄光を現わし、徴や不思議を行なわれたように、獣が生き返り、竜の力、権威、位を受け、それからもう一人の獣が最初の獣の力を現わし、徴を行なう。

16-18節: 獣の刻印

これも、14万4千人に与えられた「神の刻印」に真似たもの。

獣の国で経済活動をするためには、刻印を受けなければいけない。

現在は、コンピューターチップ(computer chip)を体内に埋め込む技術は既に出来ている。

「獣の数字」ギリシヤ語にも、ヘブル語にも、それぞれのアルファベットに数字があてがわれている。名前のアルファベットに対応する数字を足し算した合計が666になる。例:「イエス」=ヘブル語では749。反キリストの名前が666になる。

私たちは、見分けることが必要!

「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、た

めしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。(1ヨハネ 4:1-3)」